令和４(2022)年度

事　業　計　画　書

令和４(2022)年３月

甲南学園

１．はじめに

令和2(2020)年1月に確認された新型コロナウィルス感染症は今なお世界中で猛威を振るい、人々の命や社会生活、経済、文化などに大きな影響を与えている。まさに予測困難なVUCAの時代(Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性))が到来したといわれ、様々な問題や課題に迅速かつ柔軟に対応していく組織力が必要になっている。

コロナ禍の中、本学では教職員が一丸となって教育の質を維持し、学生・生徒の生活を支援する取り組みを続けている。度重なる緊急事態宣言で授業形態を対面／オンラインと織り交ぜながら、安心して学習できる環境を提供しつつ、きめ細かく教育指導が行き届く体制づくりを進めてきた。引き続きコロナ禍でも学習効果が上がる諸施策を実施し、コロナ禍にも負けない人物教育率先を力強く実践していく。

文科省教育再生実行会議（2021年12月に発足した教育未来創造会議に継承）では、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を考えていくに当たって、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイング(Well-being)の理念の実現を目指すことが重要であると提言している。本学園も教育・研究活動を通して、多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現に向けて、カーボンニュートラル、Society5.0、DX(デジタル・トランスフォーメーション)などの動きにも対応し、社会の諸問題を解決するための基盤となる多様な視点・人間力の向上に資する教育を引き続き展開する。

令和4(2022)年度は「学園中期計画(2020-2024)」における大学の「KONAN U.VISION 2025」に向けたアクションプラン、高等学校・中学校(以下、高中)の「中期行動計画」を確実に進め、「人物教育率先の進化」についてさらなる正のスパイラルを描くとともに、「KONAN-PLANET」の充実化などから「地域社会と朗らかにつながる学園」の構築をはかり、加えて学生にとって魅力的な大学とは何かをStudent-first の視点で取り組む「KONANクオリティ・プラス」プロジェクトを大きく展開する年度となる。

学園の収入、すなわち学生・生徒からの納付金や税収等を財源とする文科省補助金などの貴重な限りある財源を、これからの計画・プロジェクトに対し、いかに効果的に活用するかという視点はこれまで以上に重要となる。創立者平生釟三郎先生の考え方・理念(平生フィロソフィー)を基軸に、学園の各部局・全教職員が計画・目標の達成に向けて真摯に考え、さらに連携して取り組むことで、単なる足し算ではない効果・成果が達成されることを目指すべく、これまでと同様に選択と集中、メリハリをつけて予算編成を行う。以上の点を踏まえ、令和 4(2022)年度予算を編成し、事業計画を推進する。

２．予算編成方針

(1)予算は中期計画の中での位置付けを意識し、PDCA サイクルを念頭に事業計画を策定し、計画に相応しく最大限効果を発揮しうるよう、事業の見直しも踏まえて検討した内容での申請を求め措置する。申請に際しては必要性や有用性の観点を持ち、 過年度の予算額と執行額との差額を点検したうえで、多様な手法を検討し、内容によっては関連部課室と連携・調整する。なお事業計画は半期毎に進捗状況を確認したうえで補正予算を編成し、進捗を後押しする。

(2)コロナ禍の緊急事態にあっても人物教育率先・教育力の甲南を推進し、直接的な教育プログラムに対してはコスト意識を持ちつつ積極的に投資する。またコロナ禍に対する家計急変支援のための授業料減免・奨学金制度を継続する。なおコロナ禍の影響は避けられない情勢を踏まえ、令和 2・3(2020・2021)年度の実績を十分に考慮したうえで事業計画を策定し、貴重な財源を最も有効かつ効果的に活かせるよう様々な方策を検討した上で予算申請し・編成を行う

(3)令和 3(2021)年度より進行中の「KONAN クオリティ・プラス」プロジェクトを推進するための予算申請を受け付け、予算を組成する。申請に際しては関連部課室と連携・調整を行い、俯瞰的な視点を持ち、最大限の効果を上げる計画内容の予算申請を求め、編成に当たる。

(4)コロナ禍に対応する投資や新プロジェクトを実施するため、経常的な経費は引き続き見直し、令和 3(2021)年度額予算額を下回る金額で編成する。

(5)18 歳人口の減少と志願者の志望校を絞り込む状況のもと、収入の中で大きな比率を占める学生生徒等納付金収入は在籍目標者数を堅持する。また計画を実施する中で獲得しうる補助金は可能な限り申請する。

(6)第 2 次 KONAN プレミア・プロジェクトは、教育力の甲南を展開しうる事業経費・基盤整備にかかる支出を含めて 200 百万円程度とし、実施に際しては引当特定資産を活用する。

(7)戦略事業としては先端生命工学研究所に係る事業を据え、支出規模は 210 百万円程度とし、実施に際しては引当特定資産を活用する。

(8)資産運用収入(受取利息・配当金収入)は、理事長及び学長並びに校長より提案を受けた「21 世紀に輝く学園」、すなわち、「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等に重点配分する。また財源確保に努めつつも、安全で低リスクの資産運用を継続する。

(9)以上を踏まえて編成される事業活動収支予算は経常収支差額の均衡を目指したうえで、事業活動支出の割合は 99.0%を目安とする。

(10)支出に占める比率が高い人件費及び委託業務費は引き続き金額及び必要性・実効性を精査・査定し、その効力を高めることに努める。委託業務費については十分に委託内容と仕様を検討・見直し、令和 3(2021)年度額予算額を 1%程度下回る金額で編成する。

３．施設・設備への資金配分

人物教育を推進する場としてのキャンパスは本学に欠かせない重要資産であり、施設・設備への資金配分は少人数教育の推進・学生相互の人間形成の上で重要な役割を果たすとの視点から、より快適に教育活動・キャンパスライフが送れるように配慮する。また専門的な見地も活用し、全学的な観点での施設のグランドデザインを描くとともに、安全性を重点的に点検・改修を継続する。その際は感染症対策など安全面・衛生面にも留意するとともに、遵法の観点・精神をもって予算を編成する。

またコロナ禍でのデジタル・トランスフォーメーションの潮流と多様な学びを支える情報環境の整備に努めているが、その最適化に向けた投資に留意する。

(1)学生・教職員の安全確保のための施設改修、中長期的なコスト抑制に繋がる省エネルギー等の工事は、コストに留意しつつの耐用年数も考慮して予算化する。既設校舎や構築物の経常的な改修・修理は緊急度に応じて推進し、キャンパスの環境改善・充実に努める。

(2)教育・研究充実のための施設・機器の更新・購入及び図書購入等は従来通りの姿勢を堅持するが、例えば電子書籍での執行など、ニューノーマルの流れも考慮に入れた予算申請・編成する。

４．事業計画及び予算編成にあたっての基本認識

(1)経営環境の認識

①私立学校をとりまく経営状況の変化

日本私立学校振興・共済事業団の「入学志願動向調査」及び「今日の私学財政」によると、令和 3(2021)年度に「入学定員未充足」となった私立学校は、大学が 46.2%(597 校中 277 校)、高等学校が 73.1%(1,295 校中 947 校)となり、定員割れの学校が増加傾向にある。これに伴い、財政状況についても、令和 2(2020)年度の基本金組入前収支差額がマイナスとなった大学法人は、34.6%(560 校中 194 校)となり、支出超過の学校が増加傾向にある。

近年、大規模校の定員厳格化政策がミディアムサイズ総合大学である本学の学生確保として一定程度機能したことや、自助努力によって過去数年は志願者数が改善傾向にあったが、18 歳人口の一層の減少及び本学への志願者の多くを占める兵庫県において高等学校出身者の大学進学時における近隣他府県への流出も相まって、再び志願者数は減少傾向となっており、入学者の確実な確保に向けた抜本的対策の重要性が高まっている。

②経常費補助金は「私立学校の特色強化・改革の加速化」に対する支援へ

私立学校の経営状況が全体的に悪化する中で、文部科学省の私学関係予算は一段と政策的構成を強めている。従来の経常的経費に対する補助金額は減少しており、当該原資は国が提示した改革総合支援事業等の評価項目に合致した事業を積極的に行っている私立学校に重点配分される。主要な支援事業として、①特色ある教育研究の推進や、地域社会への貢献、研究の社会実装の推進など、特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を支援、②基礎研究を中心とする研究力強化等、大学院等の機能高度化を支援、③AI 戦略等を踏まえ、文理を問わず全ての学生が一定の「数理・データサイエンス・AI」を習得することが可能となるよう、モデルカリキュラムの策定や教材等の開発、取組み

の普及展開を支援、とされており、①～③を大きな柱として政策的な予算編成方針が打ち出されている。また、地域課題の解決やブレークスルーをもたらす人材の育成を通じ、地域に信頼され、知の中核となる大学に対しての支援として「地域活性化人材育成事業 ～SPARC～」が新規に予算要求されていることは特筆される。

引き続き、アウトカム指標を含む教育の質に係る客観的指標を通じたメリハリある資金配分による教育の質向上を促進する政策が継続される。つまり、教育改革・研究高度化に取り組むだけでなく、より教育・研究等の特色を強化し改革を加速化する私立学校への「補助金の選択・集中による配分」がより顕著なものとなり、経常費補助金の獲得は従来にも増して更に競争的な意味合いが強くなるものと予想される。

(2)本学園の経営状況確認

①一般入試(大学)志願者数の減少、高中の中学入試志願者獲得強化

大学における一般入試志願者数の減少が顕著であり、回復の兆しがあった平成 31(2019)年度一般入試志願者数の延べ 22,891 人から 3 年連続で減少し、令和 4(2022)年度一般入試の志願者数は延べ 14,662 人(約 36%減)と、21 世紀に入り最も少ない志願者数となった。入学者の状況は、定員数を確保できているものの、一般入試合格者の入学率が低下傾向にあり、精緻な入学者数を予想することが困難になってきている。他方、経営努力によって収支バランスは確保できており、引き続き安定した収入の確保とコストマネジメントに注力していく。

高中の中学入試における志願者数は、令和 4(2022)年度において延べ志願者数 871 名(甲南小学校からの志願者 23 名を除く)であった。過去 7 年間の延べ志願者数平均は 800 名を超えているものの中学受験人口の急激な減少は 18 歳人口の動向よりも早く訪れるため、平成 26(2014)年度より従来の第 1 期入試を午前と午後に分け、複数回の受験が可能な制度変更に取り組み、併願者数を増やすことに成功している。今後も志願者数を維持しつつ、第 1 志望層の多い第 1 期午前における志願者獲得に注力していく。

②教育改革の進展状況

令和 3(2021)年度の私立大学等改革総合支援事業では、4 項目中 1 項目が選定(前年度は 2 項目選定)された。また、私立大学等経常費補助金額は、約 10.0 億円(581 校中 62 位)であり、うち教育改革や研究高度化に資する取り組みに対して上乗せされる特別補助金額は、約 1.2 億円(581 校中 24 位)となっており、経年においては補助金額が漸減しているものの相対的に高い水準を維持している。

今後も教育改革、研究高度化に資する取り組みを継続するとともに、本学の特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組んでいく。

③研究高度化の進展状況

日本学術振興会より有望な研究計画に付与される令和 2(2020)年度科学研究費の採択状況は、91 件・約 2.4 億円(継続を含む研究代表者分のみ)であり、過年度から継続して高い水準を維持している。また、研究活動の実用化指標となる産業界等からの受託研究、共同研究、奨学寄附金等の外部資金による研究助成額(約 1.7 億円)も過年度と比較して増加傾向となっている。

今後は科学研究費の申請者を文系学部所属教員においても更に増やしていくことについて

全学をあげて取り組んでいく。
④就職関連指標の高位安定、高校の大学進学実績向上
令和 2(2020)年度の大学卒業生の就職率(内定者/就職希望者)は、全国平均 96.0%を上回る 97.0%であり、過年度から継続して高い水準を維持している。
なお、平成 26(2014)年度から令和元(2019)年度までの 6 年間は就職率 98.0%以上であった。
実就職率(就職者数/(卒業生数－大学院進学者数)は、令和元(2019)年度まで 9 年連続で上昇しており、平成 27(2015)年度以降 90.0%以上を維持し、令和元(2019)年度には 93.7%と過去最高値となった。しかし、令和 2(2020)年度においては、コロナ禍による全国的な就職環境の悪化や関西圏が本社である企業の求人倍率低下等が影響し、86.9%となった。引き続き、就職支援に力を入れる取り組みを継続する。
高校の大学進学実績は、浪人生を含む令和 2(2020)年度卒業生において、甲南大学の進学者数は 81 名であった。その他、神戸大学医学部に 1 名、北海道大学医学部に 1 名の合計 2 名が医学部に進学し、その他国公立大学に 20 名が進学している。本学以外の私立大学においては、医歯薬獣医系学部に 9 名、早慶上智に 11 名、海外の大学に 9 名が進学している。今後も学園としての中高大一貫教育の強化を図りつつ大学進学実績を積み重ねていく。

５．令和 4(2022)年度当初予算の要点

(1)事業活動収支の概要について
①基本金組入前収支差額
予算編成方針において経常収支差額の均衡を目指しており、約 1%の基本金組入前収支差額(1.4 億円)を目指しているが、収入合計 142.6 億円に対して支出合計 141.7 億円(基本金組入前収支差額 0.9 億円)となり、目標としている支出額を約 0.5 億円超過する予算で編成する。収支差額約 1%を目指し、期中での支出節減に努める必要がある。
②各設置校の財政的自立
大学及び本部 0.5 億円、高中 0.4 億円の収支差額を見込んでいる。
(2)資金収支の概要について
前述の収支差額に加え、減価償却額計上による留保額が約 18.2 億円あることから、事業活動でのキャッシュフローは約 19.1 億円を見込んでいる。
(3)資金収入の概要について
①学生・生徒納付金収入
前年度補正予算額 110.0 億円に対して 0.7 億円減少し、109.3 億円の見込みである。減収の要因は、平成 31(2019)年度における高中の学納金改定による増収効果があるものの、大学の学部生減少に伴う学納金減収額がその効果を上回ることによる。
この状況下において、目標とする令和 4(2022)年度入学者の精緻な確保施策と退学者抑制諸施策を継続し、引き続き確実な収入確保を目指さなければならない。
②補助金収入
前年度補正予算額に対して 0.6 億円増加し、19.7 億円の見込みである。国の補助制度は抑制傾向にあるため、教育改善や研究高度化が評価される改革総合支援事業や特別補助関係事業等への積極的な申請と選定が必要となる。

(4)資金支出の概要について

①人件費支出

前年度補正予算額 77.8 億円に対して 1.0 億円減少し、76.8 億円の見込みである。退職金支出 0.8 億円減(定年退職者の減)、大学教員人件費 0.5 億円減(採用見送り等)による。

教職員数の減少により人件費総額は減額しているものの、私学共済掛金及び雇用保険料率の増に伴い法人全体の所定福利費は 0.2 億円増を見込んでおり、社会保険料率の増に伴う法人負担人件費の増加は経営を圧迫する要因になり得る。

②教育研究・管理経費支出、施設・設備関係支出

全体としては、前年度補正予算額 59.7 億円から 3.4 億円減少し、56.3 億円を見込んでいる。大学における教育研究経費支出が 2.0 億円の減少及び施設関係支出が 1.6 億円減少することが要因である。

６．令和 4(2022)年度予算概要

(1)資金収支計算　　(百万円)

科目		当初予算	R3 補正予算	差額	備考
収入の部	学納金収入	10,929	11,000	▲71	学生・生徒数 71 名減
	手数料収入	514	486	28	
	補助金収入	1,967	1,903	64	・経常的経費補助は、圧縮率で抑制傾向 ・修学支援制度 535 百万円を含む(同額を奨学費で支出)
	その他	3,061	3,476	▲415	・特定資産からの繰入収入を含み、預り金なし、経過項目を除く ・受取利息配当金は、安全、確実な運用
資金収入の部合計		16,471	16,865	▲394	

(百万円)

科目		当初予算	R3 補正予算	差額	備考
支出の部	人件費支出	7,676	7,781	▲105	・定年退職者の減 ・大学教員採用見送り ・私学共済、雇用保険料等の法定福利費の増
	教育研究、管理、施設・設備関係支出	5,626	5,975	▲349	

	その他	2,742	2,908	▲166	・特定資産からの繰入支出を含み、預り金なし、経過項目を除く
	資金支出の部合計	16,044	16,664	▲620	
資金収入超過額		427	201	226	

(2)事業活動収支計算(経常収支及び特別収支)　　(百万円)

科目	当初予算	R3 補正予算	差額	備考
事業活動収入計	14,262	14,382	▲120	・約 0.9 億円の収支差額プラスを計上 ・9 年連続収支差額プラスを計上(R2 年度末までに累積で約 30 億円の正味財産の拡大)
事業活動支出計	14,174	14,372	▲198	
基本金組入前収支差額	88	10	78	

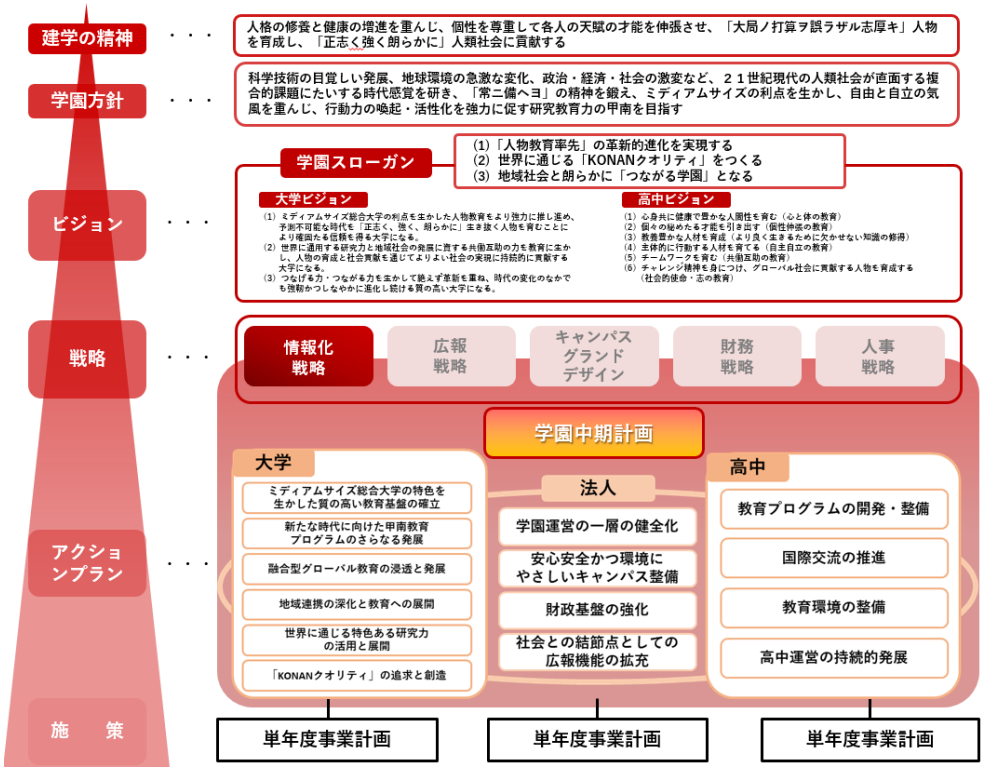
７．戦略事業(先端生命工学研究所)(2014－2023年度)

「生命の基盤的現象に関わる核酸の機能を解明し、その機能を化学的に活用して産業に貢献する」を大きな目標として、第Ⅱ期プロジェクトを組織的に推進する。卓越した研究力と優れた研究成果を発信することで､｢核酸化学は KONAN FIBER｣という研究ブランドを確立し、世界に通じる研究力を国内外に示す。また、日本学術振興会研究拠点形成事業(先端拠点形成型)、二国間交流事業及び文部科学省科学研究費助成事業学術変革領域研究(B)などで採択されている研究課題を遂行し、核酸の基礎科学、医工学応用などに関連する研究、特に非二重らせん核酸の研究で学術的・社会的に価値のある研究成果を積極的に発信することで、FIBER の研究力を示す。令和 4(2022)年度は以下のような取り組みを行う。

・著名な学術誌への国際共同研究の成果発表を通じ、国際学術交易拠点となる。
・ FIBER で博士研究員であった研究者を含む、日本学術振興会研究拠点形成事業(先端拠点形成型)での国際的な共同研究を進展させて、その成果を発表するとともに、それらの研究者の研究展開を支援する。
・国内外から、核酸の科学技術に関連する研究分野を牽引する研究者を招聘し、可能であるならば対面形式の国際シンポジウムを実施する。
・FIBER教員や国内外の外部講師による公開講演会「FIBER未来大学」を継続的に行う。また、対面開催が困難な場合は、オンラインセミナーを開催する。

８．機能別横串戦略

学園中期計画を推進するにあたり、「サイロ化」、「レガシー化」を防ぎ全体最適をはかるための「機能別横串戦略」として、令和3(2021)年度には「情報化戦略」の策定および「広報戦略」、「キャンパス・グランドデザイン」、「財政戦略」の検討を進めた。令和4(2022)年度はこれらに加えて「人事戦略」を策定し、5つの機能別横串戦略のもと、学園中期計画を着実に推進する体制を整える。



９．大学の主な取組み
(KONAN U.VISION2025)

甲南教育の新たな世紀を迎えるのを機に、人物教育率先の理念のもと、教育の質の一段の向上をめざした「甲南新世紀ビジョン」を定め、全学を挙げてその実現に取り組んでいる。令和 2(2020)年度における甲南大学のありたき姿を示した「KONAN U.VISION 2020」(平成28(2016 年)策定)は、独自性の高い数々の成果を生み出し、完成年度を迎えた。これを受け、成果の継承・発展と新たな挑戦によって更なる進化をめざした「KONAN U.VISION 2025」を定め、令和3(2021)年度から、同ビジョンにもとづく6つの教学新機軸に沿った取り組みをKONANプレミア・プロジェクト(以下、プレミアP)を中心に開始している。

令和 4(2022)年度においては、専門教育を柱に全学共通教育と正課外教育が融合してつくり上げられる本学の教育の全体像「人物教育のフレームワーク」の充実化を主軸に据え、「人物教育」のさらなる進化を目指した以下の取組みを展開する。

まず、全学共通教育については、共通教育組織の新体制が発足すること受け、基礎共通科目の整備と彩り教育の展開をテーマに「基礎共通科目と国際言語文化科目の再編」及び「副専攻制度等の各教育プログラム制度の体系的整備」に取り組むとともに、「AI・データサイエンス入門」「知的財産とイノベーション」等の時代の変化に対応する科目の新設や、「伝統文化を学ぶ」等の特色ある科目の開講など、科目の充実化を進める。また、マネジメント創造学部生の岡本キャンパス開講科目の履修拡大による 3 キャンパス融合の推進、「中高大 10 年一貫教育モデルの開発」を目指した甲南高等学校・中学校との連携強化を図る。

次に、4 月に地域連携センターとリカレント教育センターを傘下に置く社会連携機構を開設し、社会連携に関する中核組織として、リカレントプログラム「ソーシャルビジネス・ア

ントレプレナー育成プログラム」の開講、SDGs の推進に関する全学的な活動の集約・情報発信を主たる目的とした委員会組織の設置など、新たな取組みを推進するとともに、本学と社会を結ぶ連携のハブ機能の発揮や、社会連携の諸活動の情報発信に関する体制整備に取り組む。

一方、教学新機軸に掲げる「世界に通じる特色ある研究力の活用と展開」の一環として、大学院充実化に取り組み、令和 4(2022)年度においては、フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻博士後期課程の定員増に続いて、令和 5(2023)年度に向けて自然科学研究科知能情報学専攻修士課程の定員増に関する文部科学省への届け出を行う。また、人文科学研究科における社会人コースの募集及び入学試験を実施する。

その他、学生募集に関する環境変化や高校新課程への移行を踏まえた入学試験制度改革やブランディング推進等の諸課題に取り組む。

（教学新機軸に関する令和 4(2022)年度の主な取り組み）

ミディアムサイズ総合大学の特色を生かした質の高い教育基盤の確立【教学新機軸Ⅰ】	
①学生の確かな成長につながる教育活動の体系的な充実・発展	指導主任の支援体制強化策の実施（指導副主任制度の運営・拡充など）
	KONANサーティフィケイト制度運用の見直し・新分野創設に向けた検討
	教科別指導体制と教員採用試験対策の充実(教職指導員による相談業務など)
	老朽化した映像音響設備の改修（11号館、13号館、2号館各教室）
	【プレミアP】学修ポートフォリオシステムを軸とした学修支援環境の整備プロジェクト
②入学から卒業までの学生の成長を支える連携体制と環境の充実	低年次生向けキャリア支援プログラムの実施
	環境変化に応じたキャリア支援体制の強化（WEB面接用ブースの導入など）
	知的活動のマルチステージ型図書館化に向けた諸環境の整備（閲覧席の電源拡充工事など）
	学生支援機構（仮称）の設置に向けた検討
	【プレミアP】学生参加型の学習支援実践プロジェクト
③学修者本位の教学マネジメントの徹底	内部質保証システムの機能強化（外部評価に関する規程の整備など）
	IR Toolの活用に関する研修コンテンツの開発
	【プレミアP】IRレポートシステムを活用した教学マネジメントの確立プロジェクト
	【プレミアP】入学から卒業後までを見守る学生調査プロジェクト
	【プレミアP】ジェネリックスキル測定による学生の成長と学修成果の可視化プロジェクト
新たな時代に向けた甲南教育プログラムのさらなる発展【教学新機軸Ⅱ】	
①専門教育の質の向上・特色化と一体的な共通教育の整備・充実	共通教育の理念、DP、CPの見直し
	共通教育充実化の推進(共通教育の組織体制整備、マネジメント創造学部生の岡本キャンパス共通教育科目の履修機会の設定など)
	スポーツ推薦入学者及び甲南高校からの推薦入学者を対象とした入学前スクーリングの実施
	【プレミアP】日商簿記検定合格を目指す会計リテラシー・プログレス・プロジェクト
	【プレミアP】活躍する卒業生の経験を新入生に伝えるプロジェクト
②予測不可能な時代に向けた新たな教育への挑戦	文理融合コースの開設と同コースに対応したキャリア創生共通科目の整備
	数理・AI・データサイエンス教育プログラム新科目の設置
	スポーツ・健康プログラム及びコーチングアシスタント資格に向けた教育プログラムの成果と内容の検証
	【プレミアP】ビジネス・リーダーを養成する「長期インターンシップ」推進プロジェクト
	【プレミアP】新時代のWeb活用授業による教育の質向上プロジェクト
	【プレミアP】彩り豊かな教育プログラム実践プロジェクト
③リカレント教育の推進と世代を超えた学びの場の創出	「人生100年時代の学び」プログラムの推進と展開
	法務リカレントプログラムの本格開講
	年齢の垣根を超えた教育機会、交流機会の提供
	ソーシャルビジネスアントレプレナー育成プログラムの開始
	【プレミアP】リカレントプログラムの充実・発展プロジェクト

融合型グローバル教育の浸透と発展【教学新機軸Ⅲ】	
①融合型グローバル教育の特色を発揮した各種取組みの充実・魅力化	ウイーバー州立大学への留学生派遣
	留学経験者を対象とした就活支援・学修支援の実施
	図書館を活用した語学学習への積極的支援(多読チャレンジ企画の実施など)
	専門スキル留学の制度化
	【プレミアP】ウイーバー州立大学とのダブル・ディグリー・プログラムの実践プロジェクト
	【プレミアP】社会で活きるグローバル・コミュニケーション実践プロジェクト
②キャンパスのグローバル化	グローバルゾーン利用促進策の実施
	アジア圏における協定校（英語）の開拓
	【プレミアP】外国人留学生（学部正規生）サポートプロジェクト
③グローバル教育推進体制の充実・強化	知能情報学部での英語による講義の実施と海外大学との交換留学プログラムの検討
	日本語教授法実習プログラムの実施
	【プレミアP】「FITなリューカツ（留学活動）」サポートプロジェクト（全学プログラム）
地域連携の深化と教育への展開【教学新機軸Ⅳ】	
①「人物教育」の一環としての地域連携教育の充実	近隣小中学校との新たな教育連携プログラムの検討・協議
	神戸医療産業都市におけるアイランドシップ連携の推進
	西宮市及び西宮ガーデンズとの連携による特色ある初年次教育の展開
	【プレミアP】『「海」でつながる』プロジェクト
	【プレミアP】神戸新聞社・自治体と連携した地域貢献プロジェクト
②幅広い世代を対象とした地域連携・社会貢献活動の展開	新たな生涯学習の実施に向けた企画案の策定
	キッズフェスティバル検討・実施
	【プレミアP】関西湾岸SDGsチャレンジプロジェクト
	【プレミアP】硯水プロジェクト
③地域連携センターの組織体制の強化	社会連携機構の設置
	学生コーディネーターを中心とした在学生に対する効果的な広報の実施
世界に通じる特色ある研究力の活用と展開【教学新機軸Ⅴ】	
①世界に通じる特色ある研究力の積極的な教育への反映	社会人を対象とした大学院新コースの検討
	「専修免許状取得支援プログラム」の実施
	【プレミアP】甲南メディケミカル拠点の形成と展開
②研究力の可視化と産学連携の推進	総合研究所に集約された研究成果の効果的な発信
	大学発ベンチャー支援体制の整備
	【プレミアP】甲南大学研究力可視化プロジェクト
③研究推進体制の充実・強化と適正な管理運営	学内研究費制度の全教員への理解浸透
	研究費の適正な執行に向けた取組み（発注システムの導入、モニタリングの実施など）
	総合研究所の事務体制の整備
「KONANクオリティ」の追求と創造【教学新機軸Ⅵ】	
①ブランディング戦略の策定と実践	学生募集広報におけるKONANクオリティの積極的発信
	【プレミアP】人物教育の可視化・浸透プロジェクト（人物教育を可視化する冊子の作成など）
	【プレミアP】大学の特色・魅力発信プロジェクト
②高大接続活動の発展と情報発信・コミュニケーションの強化	「KONAN DATABOOK」「KONAN DIGEST」のコンテンツ及び配付方法見直し
	高校訪問第3期の実施
	【プレミアP】高校生の探究活動と甲南大生の研究活動を活性化する　甲南リサーチフェスタプロジェクト
③「常に備えよ」の教えを生かした体制づくりの推進	学部生を対象とした相談会等の実施
	学生の不安や悩みに対する対応と連携強化及びトラブル回避に向けた注意喚起の徹底
	【プレミアP】平生スピリットの実践と発信プロジェクト

１０．高中の主な取り組み

高中の中期行動計画に基づき、令和４(2022)年度は、以下に記載した事業(10 年一貫教育カリキュラム・プログラムの作成、コース制の再編・充実と学外広報、最新の Wi-Fi 環境を整えるため各施設の工事等)に取り組む。

教育プログラムの開発・整備	
①カリキュラムの再構築	新学習指導要領への対応(デジタル教科書、プログラミングへの対応など)
	10年一貫教育カリキュラム・プログラムの作成
	校務システムの改編
	甲南大学とのさらなる連携強化（10年一貫教育データブックの作成など）
②教育研究部による徳育教育、情操教育の開発	徳育教育・道徳プログラムの推進
	各界の識者や外部講師を招聘したキャリアデザイン授業やワークショップの実施
	情操教育の充実と開発（芸術鑑賞・音楽鑑賞など）
③学習遅進者に対する学習支援プログラムの整備と学力の定着	学習支援アプリ「すらら」を用いた放課後学習会の実施
	教科指導力の向上・強化（入試問題集の完備による教科力の向上）
	英語多読用図書の整備
④図書館・情報科による情報活用能力の定着	電子情報活用と高校総合学習の融合
	図書館利用・読書の推進（各種イベントの実施など）
⑤OBの協力を得たキャリア教育の推進	OBを招聘したキャリアデザイン授業やワークショップの実施
⑥体育プログラムの開発	６年間の体育の目標・計画作成
	臨海学舎のプログラムの再構築
⑦学校行事の内容点検および整理・開発	学校行事の改編・充実
国際交流の推進	
①海外の高校・中学との姉妹校締結と海外交流プログラムの整備・拡充	海外姉妹校・協定校との交流促進
	アジア・スタディツアーの拡張
②海外大学との交流	進学先候補となる海外大学との情報共有(海外大学入学説明会への参加など)
	フロリダ工科大学・NASAサイエンスツアーへの参加
教育環境の整備	
①アクティブラーニングとAV・ICT環境の整備	教室・教員室の改修（アクティブラーニング仕様への改修、Wi-Fi工事など）
②教務部・教育研究部・進路指導部によるカリキュラム整備と学力の定着	Classiを活用した生徒の学び（学習内容）の一元化と共有
③多様な進路に対応するeポートフォリオシステムの構築	6年間の成長を確認できるルーブリックの作成
高中運営の持続的発展	
①コース制の発展・充実および生徒数確保のための入試改革の実施	コース制の改編・充実にむけた検討およびWEB出願システムの導入
	広報の充実（学校案内・交通広告の更新など）
②校務分掌の改編による教員組織の活性化	校務分掌の改編
	教員雇用における雇用形態の充実に向けた検討

１１．法人の主な取り組み

学園中期計画(2020-2024)を実質化するための中期行動計画に基づき、令和４(2022)年度は、以下に記載した事業(電子決裁システムの導入、在宅勤務の環境整備、「KONAN クオリティ・プラス」プロジェクト、つながる学園プロジェクト等)に取り組む。

学園運営の一層の健全化	
①学園教育機能充実のためのガバナンス体制の点検・整備	学園独自の奨学金制度の設計変更
	理事会・常任理事会・評議員会の役割整理・機能拡充
	監事監査支援、部署別監査の実施
	教員人事手続（昇任等）の全学的整備
	学内戦略研究費制度（仮）の設計
	KONAN SPORTS特別強化指定制度の開始
	スポーツ強化支援室ホームページの開設
	甲南アスリートサポートプログラム（KASP)の拡充
	課外活動の運営の健全化（部則の点検、会計報告の確認など）
②高等教育機関としての研究機能向上と社会・地域への貢献	総合研究所の機能向上（学内研究助成金の集約、研究成果の発信など）
	ソーシャルビジネスアントレプレナー育成プログラムの支援
	発注システムの導入による研究費執行業務の効率化・不正防止体制の確立
	研究費の執行状況・体制に係るモニタリングの実施
③リスクマネジメント体制の強化	ハラスメント防止に向けた取組み（相談窓口利用状況のモニタリングなど）
	内部通報制度の改善(通報窓口利用状況のモニタリング、窓口体制の見直しなど）
	個人情報保護に係る体制の整備（研修の実施、関連規程の改正など）
	情報セキュリティ体制の整備（サポート契約の継続、研修の実施など）
	自然災害発生後の行動計画の策定
	パンデミック対応マニュアルの整備
	リスク管理・危機対応計画の見直し
④強靭な組織体制の構築と整備	電子決裁システムの導入
	在宅勤務（テレワーク）の環境整備
	就職支援サイトを活用した採用募集活動の実施
	労働条件通知書、源泉徴収票等の電子化による業務の効率化
	次期財務・会計システムの検討
	融合組織および組織改編の検討
	教職員の健康増進を目的とした人間ドック助成制度の実施
	教育系・事務系の情報基盤の再構築
	次期教育情報システム更改（実習室パソコン及び管理用サーバの更改など）
	第2・第3会議室の設備の見直し
	「KONANクオリティ・プラス」プロジェクトの推進
安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備	
	エネルギー消費原単位削減のための照明のLED化や空調更新工事の実施
	ユニバーサルデザインを取り入れた施設の整備
	キャンパス・グランドデザインの中での講堂兼体育館のあり方の検討
財政基盤の強化	
①健全な財務体質の維持・向上	業務の内製化・外製化の適切性検討による業務仕分け
	予算PDCAサイクルの見直しに向けた検討
	入学金を含めた4年間学費の設計変更
②学納金収入以外の財源多様化の推進	資金運用及び保管に関する規程の点検による運用方針確立
	「KONAN-PLANET」のプラットフォーム化の推進
	未来サポーターズ募金制度の始動
	寄附講座の運用支援
	施設貸出料金の見直しと施設貸出活性化策の実施
社会との結節点としての広報機能の拡充	
	甲南の正統な伝統を遍く伝える広報活動の展開
	同窓会をはじめとする卒業生ネットワークの深耕開拓
	学園史資料の活用（データベース化など）
	首都圏における就活生と卒業生のネットワークの構築

１２．学園中期計画推進のためのCFT(クロスファンクショナルチーム)活動

複数のCFT(クロスファンクショナルチーム)活動を通じて、学園中期計画の推進を図る。

①中高大接続検討小委員会(2021.1～継続)

甲南高中将来構想委員会(2020.10～2021.3)からの提言にもとづき、10 年一貫教育カリキュラムの作成および甲南大学とのさらなる連携強化(出張講義の拡充・高校生の大学での講義受講など)について検討する。

②地域社会と朗らかに「つながる学園」プロジェクト(2020.7～継続)

KONAN-PLANETコンテンツ制作チーム、KONAN-PLANETプラットフォーム構築チームの活動を継続し、KONAN-PLANETの機能拡充に取り組む。令和3(2021)年度に立ち上げたWEBサイト・メルマガを通じて卒業生や地域の方々などに甲南学園の情報を届け、つながりを深めるとともに、会員向けページを作成し、授業・公開講座の動画配信やプレゼント特典など、会員限定のコンテンツ提供を行う。

③KONAN-DXプロジェクト(2020.7～継続)

【経営DXサブプロジェクト】

財務・会計システムの更改について、現状と課題を整理するとともに、関係部署のメンバーで構成されるタスクフォースを立ち上げ具体的な検討を進める。

【業務DXサブプロジェクト】

電子決裁システムの導入と学園グループウェアワークフロー活用タスクフォース、働き方改革を踏まえた在宅勤務(テレワーク)環境の有効活用、オンライン会議システムの導入と会議のICT化活用タスクフォースの活動を継続し、電子決裁対象業務の拡大と決裁権限・業務フロー等の見直し、在宅勤務(テレワーク)に関する検討、オンライン会議対応の会議室整備などを進める。

【教育DXサブプロジェクト】

AI・チャットボットを活用した自動学習相談・指導システムの導入、学修ポートフォリオへのジェネリックスキル測定結果の追加と活用、学生の活動記録ツールの導入などについて検討する。

【研究DXサブプロジェクト】

各種申請手続きの電子化、研究力の可視化と産学連携への活用などについて検討する。

④研究費執行業務効率化タスクフォース(2020.12～継続)

学園全体で研究費執行業務を効率化し、フロンティア研究推進機構を中心に研究がさらに推進される体制を構築する。2022年度は、研究費による物品調達についての新しいフロー・システムを導入し、不正防止および効率化につなげるとともに、旅費・謝金関係業務の効率化策についても検討する。

⑤「KONANクオリティ・プラス」プロジェクト(2021.4～継続)

学生本意の教育、親身な学生生活支援、明るく活気あるキャンパスなど、さらに質の高い、学生にとって魅力的な大学にするために、すべての職員組織(部署)がそれぞれ定めた目標にもとづき、各種の取組み(学内掲示の充実、窓口対応の質向上など)を展開する。また、職員が組織横断チームを結成し、学生支援のクオリティを向上させるアイデアを提案・実施する「チャレンジ・サブプロジェクト」や、既存業務の効率化・付加価値創造の時間確保を目指

す「業務改善サブプロジェクト」の活動を継続し、KONAN クオリティの向上を図る。
⑥キャンパス・グランドデザイン策定タスクフォース(2021.11～継続)
　財政戦略および建物調査(令和 3(2021)年度実施)の結果も踏まえつつ、キャンパスのグランドデザイン(ソフト面のコンセプトや基本方針)およびグランドデザインを具現化するためのマスタープラン(ハード面の整備・更新計画)の策定を進める。
⑦広報戦略策定タスクフォース(2021.12～継続)
　学園全体の広報業務の地図・羅針盤となる広報戦略とその推進体制について検討する。

１３．学園中期計画ダッシュボード

　学園中期計画の進捗・成果については、学園中期計画に関する重要な指標をまとめた「学園中期計画ダッシュボード」で継続的に確認し PDCA サイクルを回していく。

甲南学園中期計画(2020～2024)　ダッシュボード(KGI,KPI)

建学の精神

人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を伸張させ、「大局ノ打算ヲ誤ラザル志厚キ」人物を育成し、「正志く強く朗らかに」人類社会に貢献する

甲南学園中期計画(2020～2024)で達成したい

「人物教育率先」の進化　／　世界に通じる「KONANクオリティ」　／　地域社会と朗らかに「つながる学園」

	入口	中身(教育)	中身(学生・生徒支援)	中身(研究)	出口	卒業後	基盤
KGI	実志願者数	授業満足度	総合満足度(卒業時)	科研費採択率	進路満足度	QOL度	キャンパス力 (学生の施設満足度)
	入学者数	退学率(4年間)	学生生活の充実度	教員1人あたり科研費採択額	実就職率	キャリアパス満足度	財務力(積立率)
	甲南高校からの内部進学率	ジェネリックスキル測定結果 (3年次の平均レベル、1-3年平均伸び率)	KONANサーティフィケイト 参加者数	博士・修士輩出数	【高中】国公立大学および私立大学医歯薬学部合格者数 (延べ数)	就職満足度	組織力(職員満足度)
	【高中】I期午前志願者数	【高中】授業満足度	海外留学者数(短期・中長期)				連携力 (自治体等との連携・協定数)
KPI	偏差値(学部別)	ST比	教職員による指導・サポートへの満足度	教員1人あたり著書・論文数	大阪府・兵庫県内企業への就職率	「KONAN-PLANET」登録者数	事業活動収支差額比率
	実質倍率	共通教育への満足度	就職や進学に関する支援・相談への満足度	国際共著論文数	有名企業400社就職率 ※週刊東洋経済より	奨学金延納率	経常収支差額比率
	延べ志願者数	グローバル教育への満足度	図書館利用者数	大学院定員充足率	社長輩出数	卒業生の記事掲載件数	教育研究経費比率
	【大学・高中】入学者における第1志望者の割合	【高中】学校行事満足度	【大学・高中】課外活動参加率	受託研究件数	進路把握率	人間関係の充実度	人件費＋業務委託費比率
	【高中】I期午前実質倍率	【高中】留年・転学・退学者数	【高中】近畿大会・全国大会出場クラブ数	大学発ベンチャーの件数	【高中】海外大学合格者数および関東難関私立大学合格者数	生活面での満足度	教育振興募金件数・金額

１４．新型コロナウィルス感染症対策

新型コロナウィルス感染症対策
・「甲南学園新型感染症対策本部」を中心に、文部科学省や兵庫県の示すガイドラインに沿った感染症対策を継続・徹底する。
・2022 年度の大学の授業は、感染症対策をとりながら原則として対面授業を実施し、授業の規模や特性により三密を避ける対策が難しい科目については、Web を活用した授業を行う。高中の授業は、対面授業を基本とし、Web 活用、時間短縮などを取り入れる。
・国が定めるガイドラインや国の通知に基づいた教室の収容定員の設定や、建物入口への AI

サーマルカメラ設置、食堂での飛沫感染アクリルパネルの設置など、感染予防対策のための施設設備の維持・改修を実施する。
・各種行事や課外活動などは、兵庫県など自治体の要請を参考に、学内の感染状況などを踏まえつつ、陽性者や濃厚接触者に対する支援や体調管理も含め、あらかじめ定められたマニュアルや方針に従って行う。
・入学試験は、試験場の感染対策を徹底するとともに、受験機会確保のための予備試験日の設定や専用の電話相談窓口設置など、受験生の安心につながる対策を行う。

以　上